



こんにちは

日本共産党市会議員

<議会報告>

玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2014年6月②発行

戦争する国絶対にさせない！

安倍内閣が狙う『集団的自衛権の行使』とは、日本が他国から攻められた時に、防衛するというものではなく、海外で同盟国のアメリカが戦争した時に、日本もその戦争に武器を持って、最前線の戦闘地域と一緒に戦うことができるようにするものです。

連立政権の公明党は当初、戦争放棄を掲げている憲法の解釈を変えて、戦争に参加できるようにしようとするのに対して反対していました。現に京都市の公明党の市会議員も「集団的自衛権の行使は反対だ」と訴えておられました。しかし、条件をつけて認めると言い出しました。「紛争時に日本人（邦人）を輸送する米艦船の防護」を認めるといいます。しかし、非現実的であることが明らかになっています。そもそも、アメリカは救出活動に国籍による優先順位を決めています。順位は①アメリカ国籍保持者、②アメリカの永住権保持者、③イギリス国民、④カナダ国民、⑤その他の国民の順番です。（防衛研究所紀要、2002年2月）日本はその他なのです。



毎日宣伝に取り組んでいます。右から玉本市議、浜田府議

シリーズ 福祉の後退許さない闘いを！⑤ せっかくの学資保険が・・・

生活保護世帯の子どもさんの学ぶ権利の保障として、長年の運動の成果で、現在は学資保険をかけることが認められています。しかし、残念なことに、大学受験に失敗し浪人をするようになったことで、学資保険の満期保険金が収入とみなされ、生活保護を取り消しとなった方がありました。

まったく融通の利かない話です。子どもの学ぶ権利を保障することに力を尽くすべきです。

そもそも、日本は高校・大学・専門学校など、高等教育にかかる費用が高すぎることに問題があります。親の経済状況によって、学ぶ権利が奪われないためにも、教育費をもっとかからないように国が支援すべきです。

どの子ども平等に学ぶ権利が保障される社会をめざして、頑張ろう！

つばやき：自衛隊員の母の願い・・・

安倍首相が進める海外での武力行使ができるようになると自衛隊は、文字通り「軍隊」になります。自衛隊員を子どもに持つ母親や妻、子ども達は、いつ大切な人を失うかはわからなくなります。宣伝をしていたら、「家族としては、声がなかなか出せない。日本共産党に頑張ってほしい。戦争なんかに行かせたくない」と声をかけられたそうです。自衛隊基地がある舞鶴では、同僚の共産党の市会議員も同じように声をかけられたそうです。二度と岸壁の母となりたくない思いに触れ、涙が出て来ます。軍隊になれば、必ず徴兵制が引かれ、我が子達も、銃を持つての訓練に参加させらることになるかと思うと背筋が凍ります。子ども達の未来の平和のために頑張りたい！



一人ひとりを大切に！

アンテナ



先日、山科区のある小学校の1年生のクラスで、発達に障害のある子どもに対して、担任が、粘着テープを口に貼らないといけないかな」と指導してしまったことが問題になった事件がありました。先日、教育福祉委員会でも報告があり、クラスの状況を聞くと、クラスに4人も多動傾向があり、特別な支援が必要な子どもさんがいたということがわかりました。

先生が子どもに対して、粘着テープを示して、静かにさせようとしたのは間違っています。が、どれだけ、熱意があり、優しい先生であろうと、ベテランの先生であろうと、先生の身体は一つしかないのですから、対応に限界があります。京都市は支援員という研修をした人員を配置していますが、学校に一人の配置で、しかも1週間に20時間という時間に制限のある勤務になっていきます。一人が歩き出したり、騒ぎ出すと、フォローをする役割がありますが、他のクラスも含め、その学校には16人ぐらい支援が必要な子どもがいることから、まったく手が足りません。補充すべきと追及しましたが、予算がないとの答弁です。

市長は口癖のように「二人ひとりを徹底的に大切にしよう」と言っていました。そうならないのが現状です。他の学校の先生とお話して、まったく他人事ではないと危機感をもってもらえませんでした。子どもたちの発達を保障する教育となるよう引き続き、先生の体制を充実させるよう求めていきます。

